

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	白糠町子ども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日 ～ 2025年 11月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年 11月 4日 ～ 2025年 11月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・小集団や個別での療育を行っており、活動場所も広く個々の児童に合わせた活動や活動場所を提供できる。	・児童の相手に伝えたい関わりたいという欲求が高まるよう児童の興味関心のあるものを用いて、意欲や集中力が高まる遊びや机上課題を提供するよう工夫している。	・経験年数に差はあるが各職員がスキルアップを図り、学ぶ機会を設けていながら、提供する支援が統一するよう学んだことを互いに伝えあい、知識とスキルを高めたい。
2	・療育の見学については随時対応できるようにしており、見学しながら家での様子や保護者の困りごとを伺うなど、相談に応じる機会を作っている。	・就学に向けての不安や悩み、家庭での困りごと等些細な相談も随時受け付け、保護者の都合に合わせて相談日時や場所等を設定するなど相談しやすい環境を設けられるよう工夫している。	・個別の相談や療育の見学は随時受け付けている旨を周知できるように、おたより等に載せるなどして発信の工夫をしていく。また、きょうだい児や保護者が繋がる機会を設ける際には、集まりやすいに日時など検討していきたい。
3	・療育後に活動の様子をすぐに職員間で伝えあうなど常に情報共有をすることができる。	・マンツーマンでの支援終了後には、すべての職員で児童の活動の様子について情報の共有や意見交換をしている。	・支援終了後には、全職員に話を振り全員から意見等を出せるようにしてことや、個別療育の場合でも担当以外の職員でも対応できるよう、情報共有を深められるよう努めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用回数を増やしたいなどのニーズがあるが、希望に応えることが現在難しい状況がある。	・白糠地域には他事業所は無く、児童発達支援と放課後等サービスの両方で1日10名の枠で運営しており、毎年、新年度を迎える度に契約人数は微増しているため。	・欠席等で利用の枠に空きができた場合には、家庭の都合や希望を確認し、契約量の範囲内で振替利用日を設けるなど、利用者やご家族の要望に応じ1回でも多く利用ができるよう調整していきたい。
2	・遠方から通勤している職員が多く、台風や吹雪等の悪天候で出勤が困難になることや、急な体調不良等が重なり職員の確保が難しく、受入調整や療育を休止しなければならないことがある。	・悪天候や体調不良等の予測がつきにくい場合には、応援体制の確保が難しく、悪天候の場合にはフォローに入る職員も遠方からの出勤であり、急遽の場合の職員確保が難しいため。	・療育の休止は極力しないようにしていくが、やむを得ず休止の対応を取った場合には、後日、振替利用の調整等を行い、利用者や保護者の要望に応じられるようにしていきたい。
3			